



2026年2月17日

各 位

会 社 名 株式会社ライフドリンク カンパニー
代表者名 代表取締役社長 岡野 邦昭
(コード: 2585 東証プライム市場)
問合せ先 執行役員経営管理本部長 清水 大輔
(TEL. 06-6453-3220)

(訂正)「2026年3月期第3四半期 決算補足説明資料」の一部訂正について

2026年2月12日に公表しました「2026年3月期第3四半期 決算補足説明資料」について、一部訂正すべき事項がございましたので、下記のとおり訂正のうえ、訂正後の資料を添付いたします。

記

1. 訂正の理由

「2026年3月期第3四半期 決算補足説明資料」の発表後に、一部の記載に誤りがあることが判明したため、関連する箇所を訂正するものです。

2. 訂正箇所

- P. 6 業績 : 2026年3月期 第3四半期累計
2026年3月期（第3四半期累計）EPS 及び増減
- P. 13 業績予想の修正 : 2026年3月期
修正後 EPS 及び増減

【訂正前】

業績:2026年3月期 第3四半期累計

生産数量^{*1}の増加(前期比+13%)が寄与し、61億円の増収(+18%)。また、各コスト増を増収やコスト削減でカバーし、営業増益(+10%)となりました

単位:百万円	2025年3月期 (第3四半期累計)	2026年3月期 (第3四半期累計)	増減 (対前期)	前期比
売上高	34,545	40,672	+6,127	+18%
営業利益 (率)	4,212 (12.2%)	4,622 (11.4%)	+410 (▲0.8pt)	+10%
当期純利益 (率) (EPS ^{*2})	2,886 (8.4%) (55.25)	3,080 (7.6%) (58.99)	+193 (▲0.8pt) (+3.74円)	+7%
EBITDA (率)	5,566 (16.1%)	6,218 (15.3%)	+652 (▲0.8pt)	+12%

6 *1:関係会社である生駒名水(株)の生産数量は含みません *2:当社は、2024年10月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を実施。そのため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定してEPSを算出しています

【訂正後】

業績:2026年3月期 第3四半期累計

生産数量^{*1}の増加(前期比+13%)が寄与し、61億円の増収(+18%)。また、各コスト増を増収やコスト削減でカバーし、営業増益(+10%)となりました

単位:百万円	2025年3月期 (第3四半期累計)	2026年3月期 (第3四半期累計)	増減 (対前期)	前期比
売上高	34,545	40,672	+6,127	+18%
営業利益 (率)	4,212 (12.2%)	4,622 (11.4%)	+410 (▲0.8pt)	+10%
当期純利益 (率) (EPS ^{*2})	2,886 (8.4%) (55.25)	3,080 (7.6%) (59.07)	+193 (▲0.8pt) (+3.82円)	+7%
EBITDA (率)	5,566 (16.1%)	6,218 (15.3%)	+652 (▲0.8pt)	+12%

6 *1:関係会社である生駒名水(株)の生産数量は含みません *2:当社は、2024年10月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を実施。そのため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定してEPSを算出しています

【訂正前】

業績予想の修正:2026年3月期

第3四半期累計期間の業績進捗及び第4四半期の見込みを踏まえて、通期予想を修正しています

単位:億円	修正前	修正後	増減
生産数量(百万箱)	84	84	-
売上高	520	522	+2
営業利益	65.0	52.2	▲12.8
(率) (率)	(12.5%) (85.14円)	(10.0%) (66.31円)	(▲2.5pt) (▲18.83円)
当期純利益	44.5	34.7	▲9.8
(率) (EPS)*1	(8.6%) (85.14円)	(6.6%) (66.62円)	(▲2.0pt) (▲18.52円)
EBITDA	86.0	74.0	▲12.0
(率)	(16.5%)	(14.2%)	(▲2.3pt)
(DPS)	14.00円	14.00円	-

13 *1:修正前は2025年3月末時点の、修正後は2025年12月末時点の発行済株式総数に基づき算出しています。

【訂正後】

業績予想の修正:2026年3月期

第3四半期累計期間の業績進捗及び第4四半期の見込みを踏まえて、通期予想を修正しています

単位:億円	修正前	修正後	増減
生産数量(百万箱)	84	84	-
売上高	520	522	+2
営業利益	65.0	52.2	▲12.8
(率) (率)	(12.5%) (85.14円)	(10.0%) (66.62円)	(▲2.5pt) (▲18.52円)
当期純利益	44.5	34.7	▲9.8
(率) (EPS)*1	(8.6%) (85.14円)	(6.6%) (66.62円)	(▲2.0pt) (▲18.52円)
EBITDA	86.0	74.0	▲12.0
(率)	(16.5%)	(14.2%)	(▲2.3pt)
(DPS)	14.00円	14.00円	-

13 *1:修正前は2025年3月末時点の、修正後は2025年12月末時点の発行済株式総数に基づき算出しています。

3. 訂正後の資料を添付しております。

以上



おいしさの中心、安心の先頭へ。

2026年3月期 第3四半期 決算補足説明資料



LIFEDRINK COMPANY

2026年2月12日

本資料の取扱い上の注意

本資料は、株式会社ライフドリンク カンパニー(以下「当社」といいます。)及び当社グループの企業情報等の提供のために作成されたものであり、当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本資料に記載される当社グループの目標、計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、本資料の作成時点における当社グループの判断又は考えにすぎず、実際の当社グループの経営成績、財政状態その他の結果は、国内外の経済情勢、業界の動向、他社との競業、人材の確保、技術革新、その他経営環境等により、本資料記載の内容又はそこから推測される内容と大きく異なる可能性があります。

本資料に記載される業界、市場動向又は経済情勢等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社グループがその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではありません。また、業界、市場動向又は経済情勢等に関し、当社グループの見立て、予想、又は試算に基づく情報が記載されていることがあります、これらは、本資料の作成時点における当社グループの判断又は考えにすぎず、実際の数値はこれらと大きく異なる可能性があります。

他社の財務数値その他の指標は、会計基準又は計算方法の違い等の理由により、当社における対応する指標と直接比較することはできません。

今後の状況の変更等が本資料の内容に影響を与える可能性がありますが、当社は、本資料を更新、修正又は確認する義務を負うものではありません。本資料の内容は事前の通知なく変更されることがあります。

株式会社ライフドリンク カンパニー
2026年2月12日

サマリー

2026/3期
第3四半期

増産・増収
・営業増益

2026/3期
業績予想

下方修正

中長期の
見通し
変更なし

- 御殿場工場やOビバレッジ(以下「OBK」)の生産寄与、及びNビバレッジ(以下「NBK」)のフル生産化により、生産数量は前期比13%増加
- 生産数量増に対応した販売先確保により、売上高は前期比18%増加
- 物流費や労務費・人件費などの各種コスト増加を、売上増加やボトル内製化などのコスト削減でカバーし、営業利益は前期比で10%増加

- 第3四半期累計期間の業績進捗及び第4四半期の見通しを踏まえて、業績予想を修正。要因は、物流効率の悪化(EC含)、原料茶葉コストの高騰など
- なお、物流効率の悪化は倉庫運用の見直しやEC物流の複数拠点化により、原料茶葉コストの高騰は価格改定や海外産茶葉の使用により、対応予定

- 足許ではコスト増加の課題が生じているが、いずれも対処可能
- 市場や競合といった外部環境の中期の見通しは変わらず。引き続き、「Max生産Max販売」のしんか(進化/深化)への取り組みを進める

1. 2026年3月期 第3四半期 業績

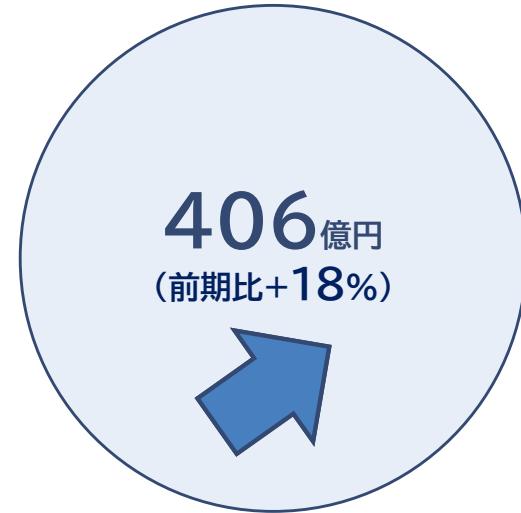
2. (参考) 会社紹介

ハイライト:2026年3月期 第3四半期累計

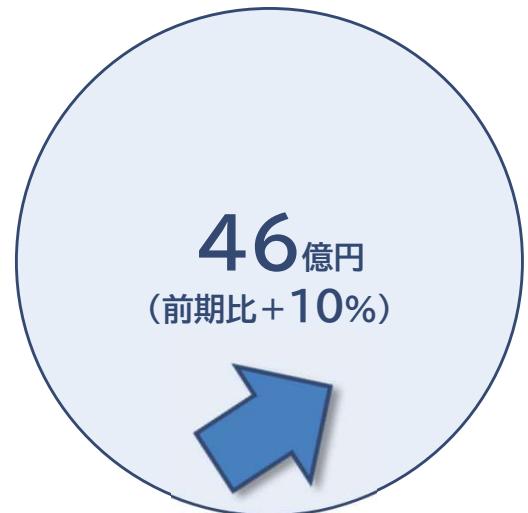
生産数量*1



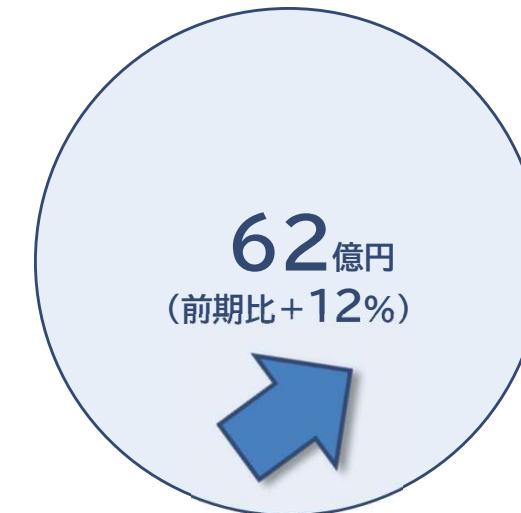
売上高



営業利益



EBITDA



*1:関係会社である生駒名水(株)の生産数量は含みません

*2:1箱=12リットルで計算しています

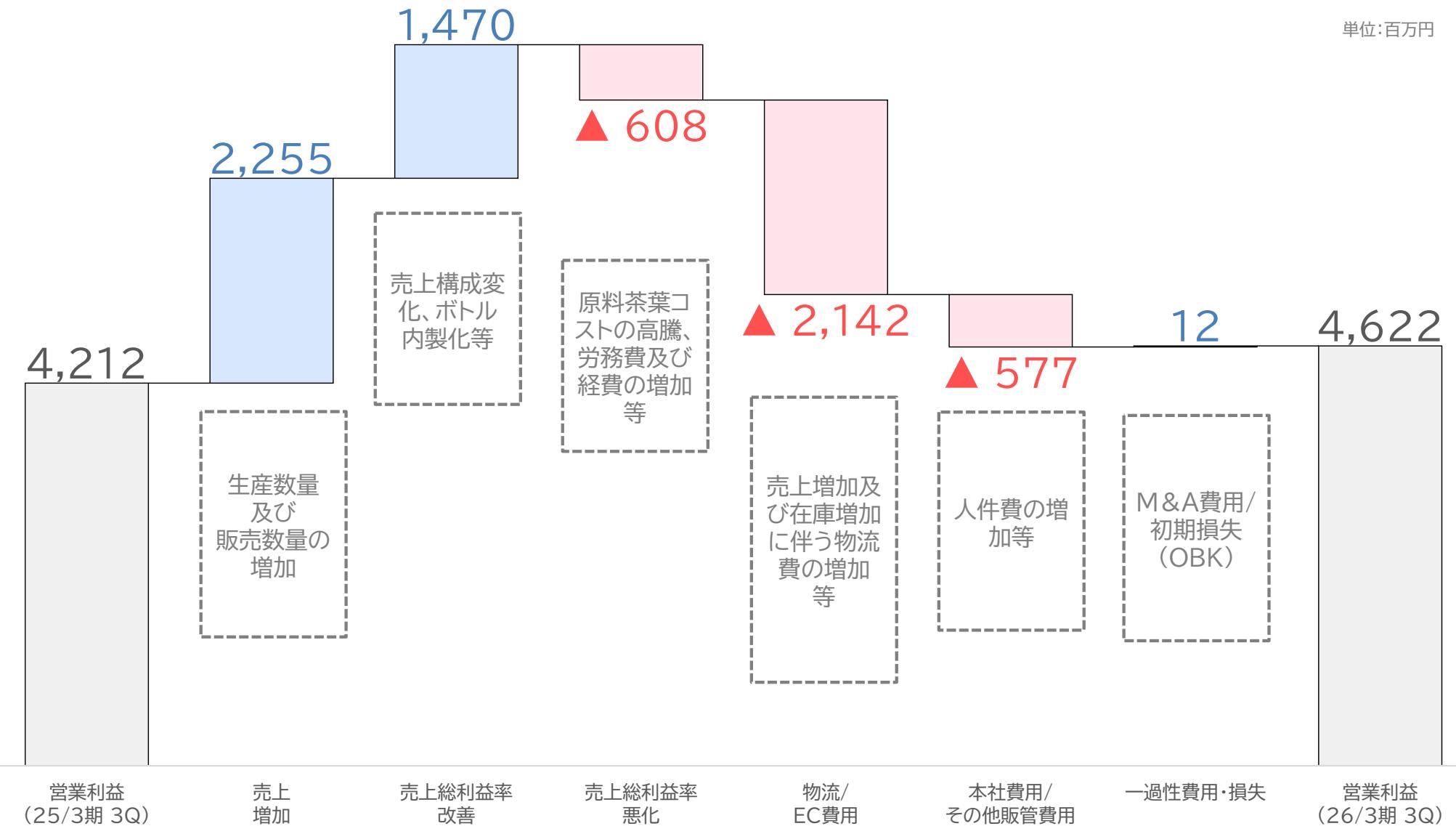
業績:2026年3月期 第3四半期累計

生産数量^{*1}の増加(前期比+13%)が寄与し、61億円の増収(+18%)。また、各コスト増を増収やコスト削減でカバーし、営業増益(+10%)となりました

単位:百万円	2025年3月期 (第3四半期累計)	2026年3月期 (第3四半期累計)	増減 (対前期)	前期比
売上高	34,545	40,672	+6,127	+18%
営業利益 (率)	4,212 (12.2%)	4,622 (11.4%)	+410 (▲0.8pt)	+10%
当期純利益 (率) (EPS ^{*2})	2,886 (8.4%) (55.25)	3,080 (7.6%) (59.07)	+193 (▲0.8pt) (+3.82円)	+7%
EBITDA (率)	5,566 (16.1%)	6,218 (15.3%)	+652 (▲0.8pt)	+12%

業績増減要因:2025年3月期 第3四半期との比較

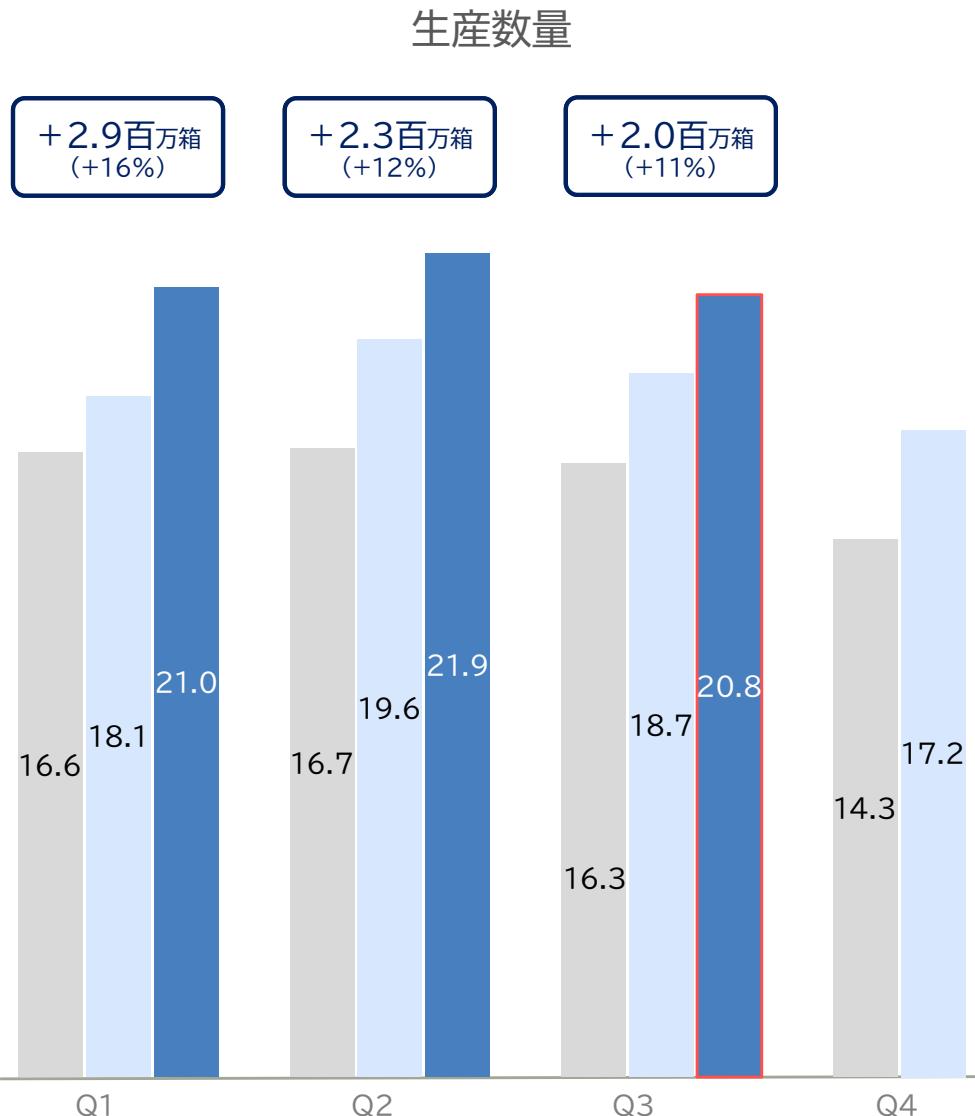
売上増加や在庫増加に伴う物流費の増加を增收及び生産性向上/コスト削減でカバーし、営業利益は前期比4.1億円増加しました



(参考)四半期業績の推移 ①

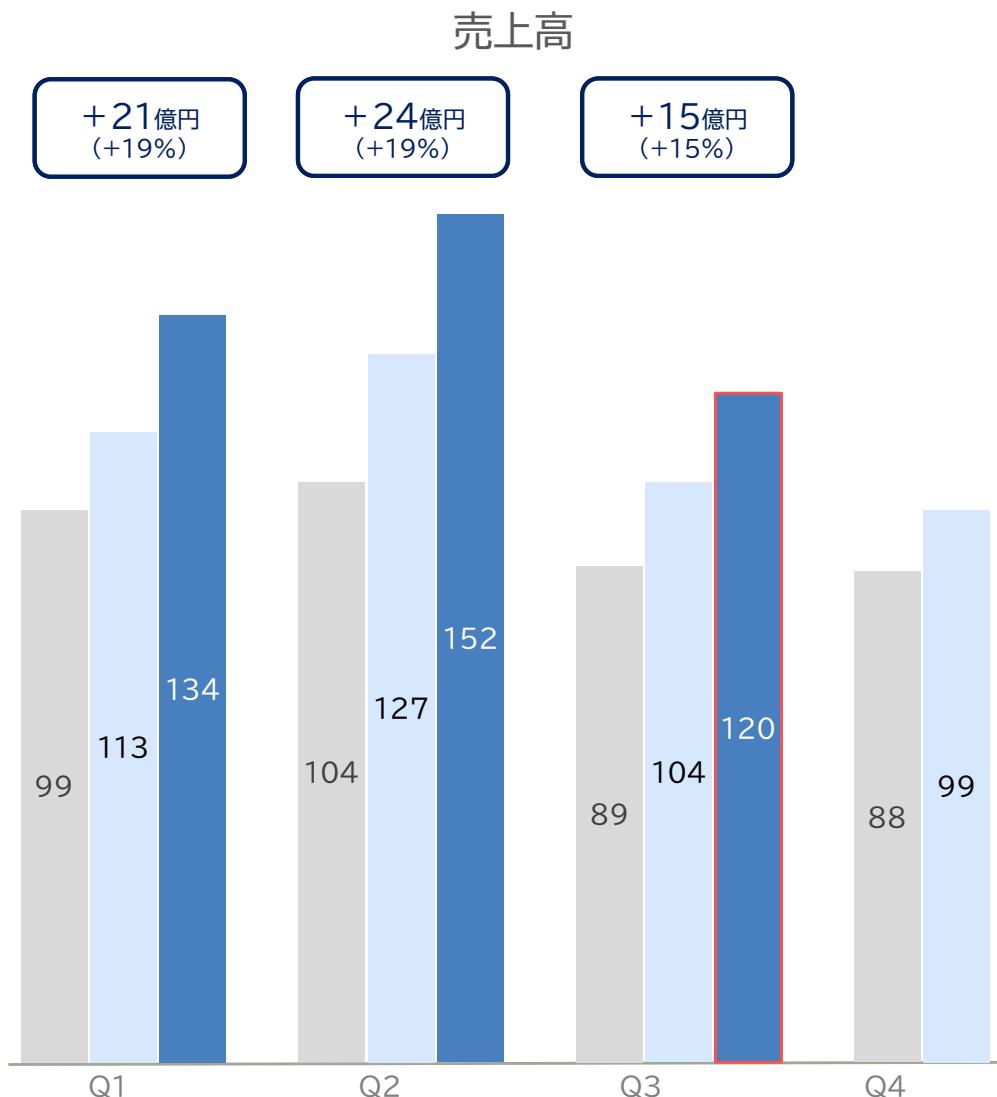
■ 2024年3月期
□ 2025年3月期
■ 2026年3月期

単位:百万箱^{*1}



■ 2024年3月期
□ 2025年3月期
■ 2026年3月期

単位:億円



(参考)四半期業績の推移 ②

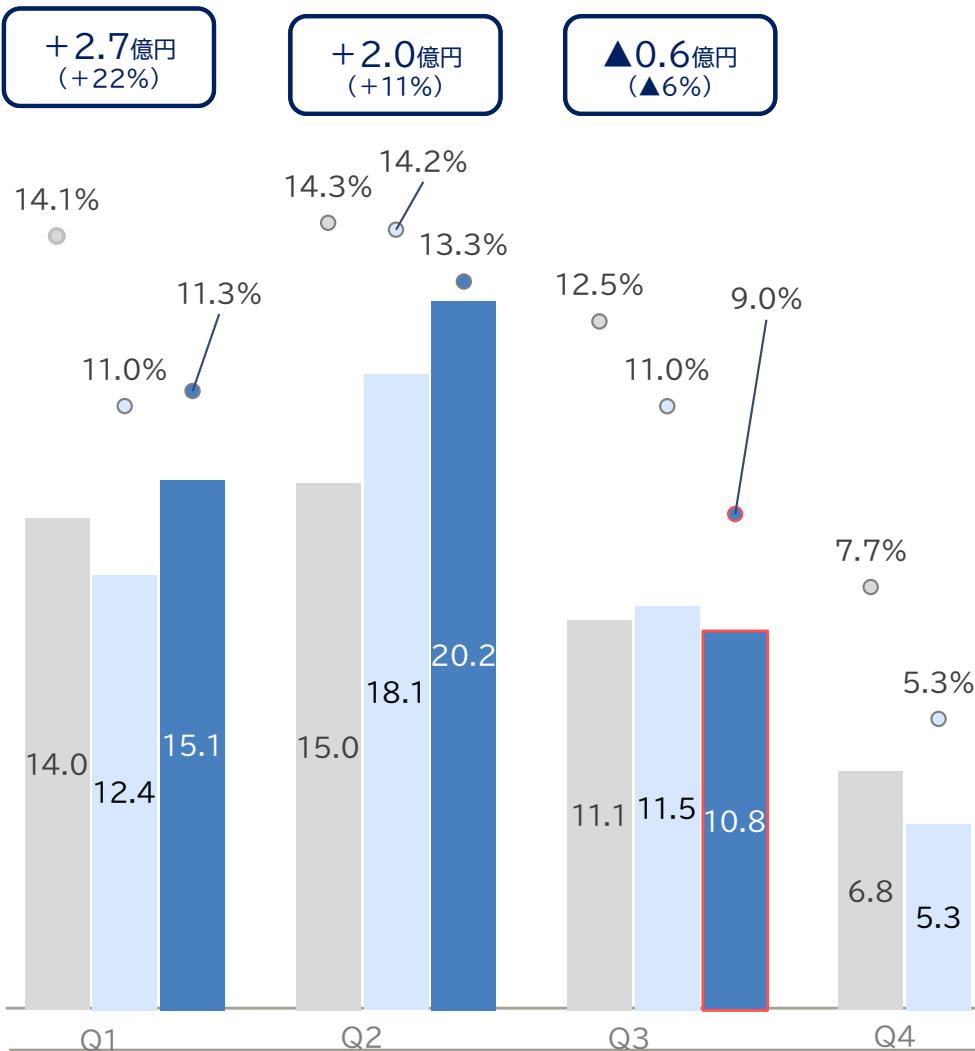
■ 2024年3月期
□ 2025年3月期
■ 2026年3月期

単位:億円

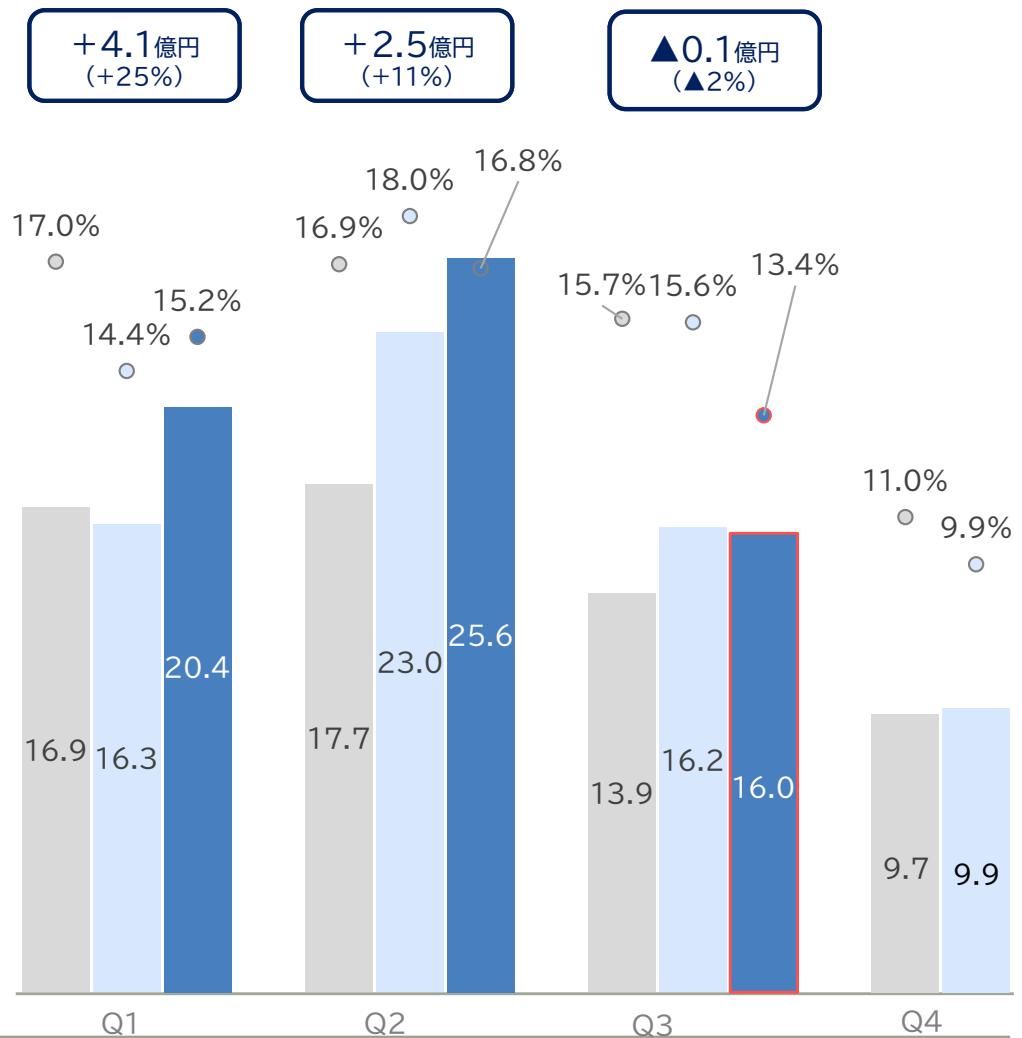
■ 2024年3月期
□ 2025年3月期
■ 2026年3月期

単位:億円

営業利益/営業利益率



EBITDA/EBITDAマージン



財政状態:2026年3月期 第3四半期

Nビバレッジや御殿場工場への設備投資等により、固定資産が前期末比47億円増加。また、設備投資資金を借入で賄ったことにより、純有利子負債が55億円増加しました

単位:百万円	2025年3月期		2026年3月期 第3四半期		
	金額	構成比	金額	構成比	増減
流動資産	12,443	37%	14,627	36%	+2,183
(現預金)	3,014	9%	2,897	7%	▲116
固定資産	20,763	63%	25,529	64%	+4,765
資産合計	33,207	100%	40,156	100%	+6,948
流動負債	10,811	33%	15,101	38%	+4,289
固定負債	8,165	25%	9,048	23%	+882
(有利子負債)	12,401	37%	17,939	45%	+5,538
負債合計	18,976	57%	24,149	60%	+5,172
純資産	14,230	43%	16,007	40%	+1,776
負債及び純資産合計	33,207	100%	40,156	100%	+6,948

【参考情報】

純有利子負債EBITDA倍率*1 1.4x - 2.0x - +0.6pt

成長投資実績及び今後の計画:2026年3月期 第3四半期累計及び通期見込

Oビバレッジ・山中湖工場のボトル内製化工事が完了。また、2027年3月期以降の増産に寄与するその他の成長投資も順調に進捗しています

(単位:億円)	26/3期		27/3 期以降	コメント
	3Q実績	通期見込		
LDC 既存工場	5	5	77	<ul style="list-style-type: none"> 岩手工場ライン更新(+8百万箱/年。28/3期下期完了予定) :旧建屋の解体工事も完了するなど、順調 なお、通常の設備維持更新は約10億円/年を予定
御殿場工場	14	19	48	<ul style="list-style-type: none"> 500ml飲料ライン増設(8百万箱/年。27/3期下期稼働予定) :建屋建設工事など、順調 倉庫内業務の省人化
子会社/M&A Nビバレッジ	27	40	15	<ul style="list-style-type: none"> ボトル内製化(工事・支払完了) 500ml水飲料ライン増設(3百万箱/年。26年4月稼働予定) :設備搬入も概ね完了するなど、順調 生産数量増に対応した倉庫の建設 :建屋建設工事が想定通り進捗
Oビバレッジ・群馬ビバレッジ	7	36	47	<ul style="list-style-type: none"> 日田工場:ボトル内製化(工事・支払完了) 山中湖工場:ボトル内製化(工事・支払完了) 群馬ビバレッジ:26年1月にポツカサッポロフード&ビバレッジ群馬工場を取得。生産能力増強や収益性改善(ボトル内製化)などの追加投資を含めて投資総額は約77億円
合計	53	100	187	

業績の進捗: 2026年3月期 第3四半期累計

通期予想(期初)に対する進捗率は、売上高が78%、営業利益が71%となっています

通期予想

売上高

実績**406**億円 進捗率**78** %

520億円

営業利益

実績**46**億円 進捗率**71** %

65億円

当期純利益

実績**30**億円 進捗率**69** %

44.5億円

業績予想の修正:2026年3月期

第3四半期累計期間の業績進捗及び第4四半期の見込みを踏まえて、通期予想を修正しています

単位:億円	修正前	修正後	増減
生産数量(百万箱)	84	84	-
売上高	520	522	+2
営業利益 (率)	65.0 (12.5%)	52.2 (10.0%)	▲12.8 (▲2.5pt)
当期純利益 (率) (EPS)*1	44.5 (8.6%) (85.14円)	34.7 (6.6%) (66.62円)	▲9.8 (▲2.0pt) (▲18.52円)
EBITDA (率)	86.0 (16.5%)	74.0 (14.2%)	▲12.0 (▲2.3pt)
(DPS)	14.00円	14.00円	-

13 *1:修正前は2025年3月末時点の、修正後は2025年12月末時点の発行済株式総数に基づき算出しています。

業績予想の営業利益増減要因:期初予想との比較

各種コスト増加で足許の収益性が悪化しているものの、いずれも対応可能。現時点では中長期の収益性への見通しも変更なし

単位:億円	年間	第3四半期 累計	第4四半期	要因と対策
営業利益修正額	▲12.8	▲9.2	▲3.5	
B2B物流効率悪化	▲5.9	▲4.2	▲1.6	在庫増加時の外部倉庫運用コスト負担発生 ⇒短期的に運用見直し、中期的に倉庫建設
EC物流費単価悪化	▲4.2	▲0.4	▲3.8	配送単価の値上げの影響(第3四半期より) ⇒早期にEC物流の複数拠点化を実現
原料茶葉価格の高騰	▲1.4	▲0.8	▲0.6	原料茶葉価格の高騰の影響(価格改定4Q開始) ⇒価格改定、仕様変更(海外産茶葉活用)で対応
自社品販売数差異	▲1.6	▲2.4	+0.8	自社製造品の販売数差異による影響 ⇒数量差異を埋める販売先開拓は完了
製造委託増加	▲2.0	▲2.0	-	炭酸及び茶2Lの生産キャパ不足に伴う委託増 ⇒群馬ビバレッジ稼働及び茶2L工場の増産によりキャパ不足は解消
その他	+2.4	+0.6	+1.8	電気代単価見直しやメンテナンスコスト見直しによるコスト削減効果他

2026年3月期トピックス①:群馬工場の取得

2026年1月1日に子会社の群馬ビバレッジがポッカサッポロフード&ビバレッジ・群馬工場を取得。2月後半の生産開始に向けて、準備を進めています

概要

名称	群馬ビバレッジ株式会社
所在地	群馬県伊勢崎市境東新井 1301-1
生産品目	小容量の茶・炭酸など
生産数量	現設備で最大8百万CS



PMI

2027年3月期の利益貢献を目標に生産・物流面での協業、及び販売先開拓が進行中

生産

- 第1段階(26/3期予定)
:フル生産化
- 第2段階(27/3期予定)
:ライン能力増強工事 + ボトル内製化
- 第3段階(28/3期予定)
:休止設備の再稼働(ボトル内製化含)

物流

- 工場内倉庫の有効活用(他工場商品の保管場所として活用など)

販売

- LDC取引先への拡販
- 商品ラインナップの拡充

2026年3月期トピックス②:新会社(LDアグリ)設立

緑茶飲料原料の安定調達および国内茶生産の基盤維持を目的とした新会社を設立しました

概要

名称	LDアグリ株式会社
所在地	鹿児島県南九州市知覧町永里 石坂之上4000-3
事業内容	農作物の生産・加工及び販売



目的と取り組み

- 目的
 - ✓ 緑茶飲料の原料茶葉の安定調達(価格・量)及び国内茶生産の基盤維持
- 取り組み(鹿児島県及び静岡県を予定)
 - ✓ 荒茶工場の運営
 - ✓ ほ場の賃借による茶葉生産

現在

他社

LDC-G

茶葉生産 → 荒茶 → 仕上茶

将来

茶葉生産 → 荒茶 → 仕上茶

2026年3月期 トピックス③:EC・受賞実績

「LIFEDRINKオンラインストア 楽天市場店」が楽天ショップ・オブ・ザ・イヤー2025で、総合賞6位を獲得しました

| 楽天市場

「LIFEDRINKオンラインストア 楽天市場店」

「楽天ショップ・オブ・ザ・イヤー2025*1」

- ✓ 総合賞 6位
- ✓ 水・ソフトドリンクジャンル賞 大賞
- ✓ ダブルイヤー賞

「強炭酸水 OZA SODA 500ml 48本」

「楽天年間ランキング2025*2」

水・ソフトドリンク ジャンル賞 第1位



| Amazon

「強炭酸水 OZA SODA 500ml 48本」

「Amazon.co.jpマーケットプレイスアワード2025*3」
カテゴリー賞(飲料部門)



1. 2026年3月期 第3四半期 業績

2. (参考) 会社紹介

会社概要

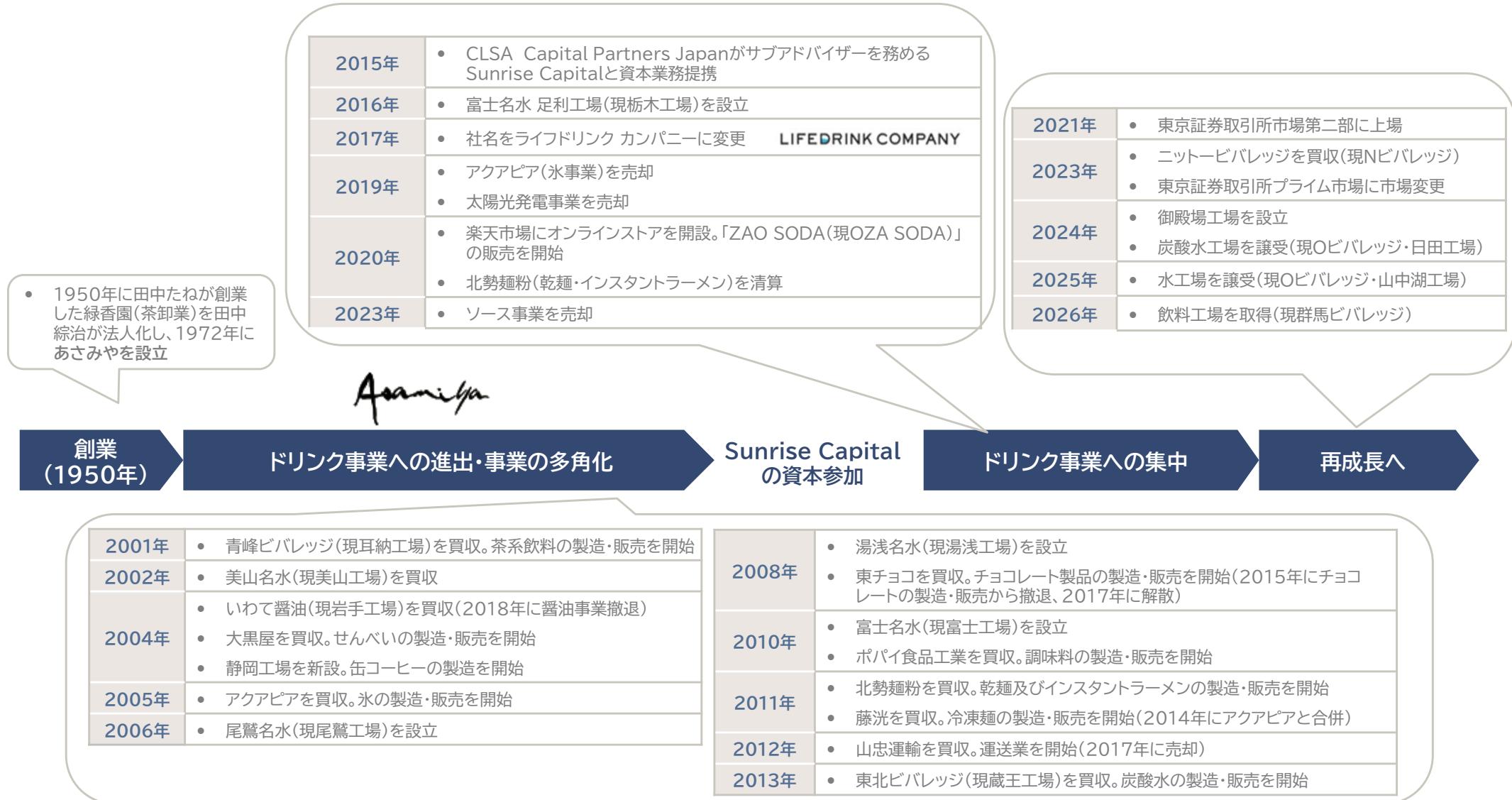
当社は大阪を本社所在地とし、「水」「お茶」「炭酸飲料」の製造販売を行うドリンク・リーフ事業を主たる事業としています

会社名	株式会社ライフドリンク カンパニー(英:LIFEDRINK COMPANY, INC.)
代表者	岡野 邦昭
創業	1950年(設立:1972年)
本社所在地	大阪府大阪市
事業内容	<ul style="list-style-type: none">ドリンク・リーフ事業－水飲料/茶系飲料/炭酸飲料・茶葉製品の製造・販売
事業所一覧	<ul style="list-style-type: none">大阪本社・東京支社工場10カ所(飲料＝岩手、蔵王(山形)、栃木、富士(山梨)、御殿場(静岡)、尾鷲(三重)、美山(京都)、湯浅(和歌山)、耳納(福岡)、他＝知覧(鹿児島))連結子会社:Nビバレッジ株式会社(富山県朝日町)、Oビバレッジ株式会社(大分県日田市/山梨県山中湖村)、群馬ビバレッジ株式会社(群馬県伊勢崎市)
従業員数*1	773名 (148名) 2025年12月末時点
備考	東京証券取引所プライム市場(証券コード:2585)

*1:連結の従業員数。従業員数は、末日時点の就業人員(社外から当社への出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材派遣会社含む。)は、()外数で記載しております

沿革

当社は会社設立53年。2023年6月にプライム市場に上場しました



企業理念

当社は「おいしさの中心、安心の先頭へ」を企業理念として、「大切な人に、飲ませたいものだけを」を行動指針として活動しています

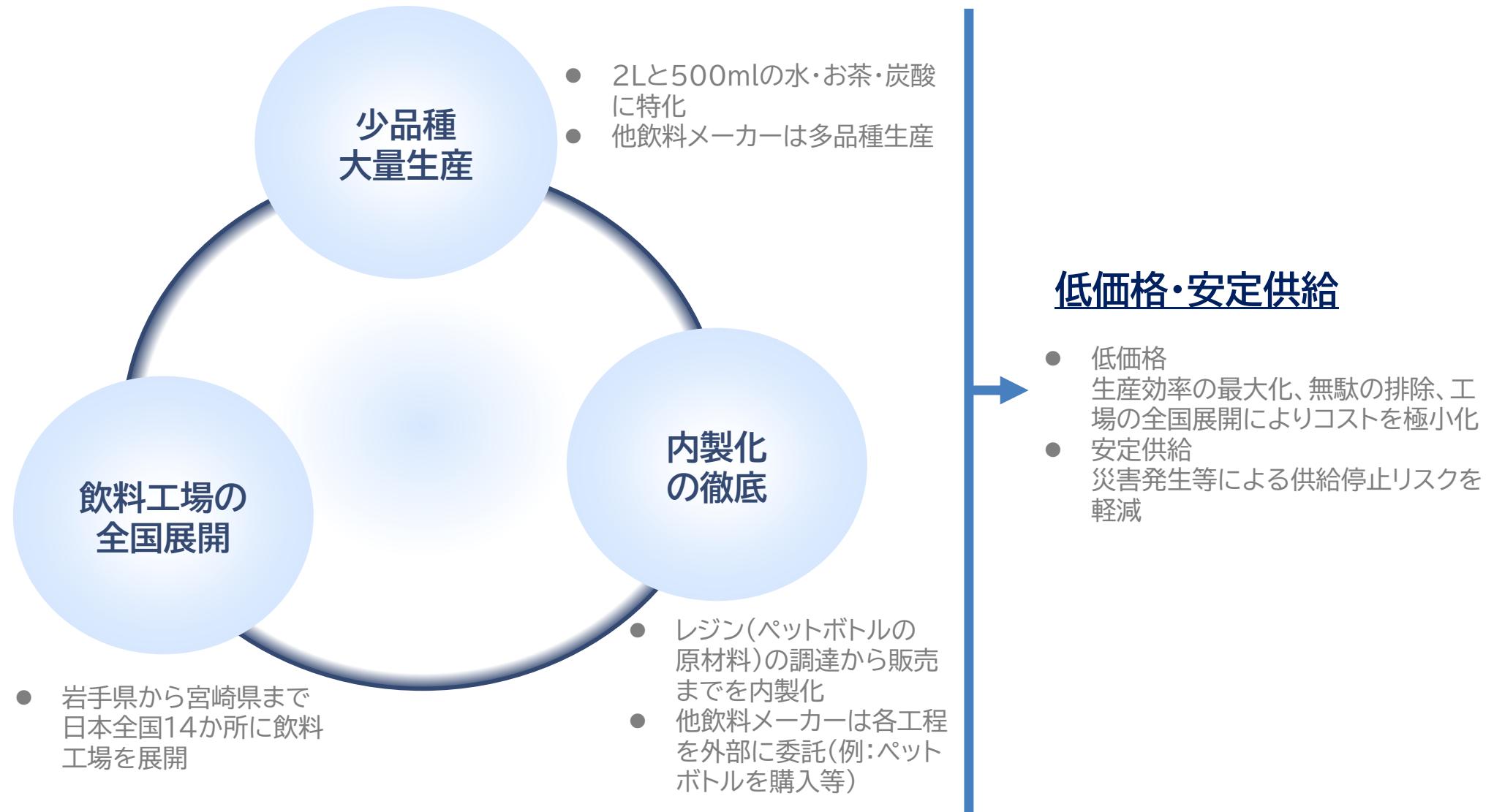
おいしさの中心、安心の先頭へ。

赤ちゃんからご高齢の方まで、
すべての人の“いつも”に寄り添える会社であるために。

株式会社ライフドリンク カンパニーは、
“おいしさのスタンダード”と“確かな安全性”を追求し、
朝起きてから夜眠るまで、毎日のあらゆるシーンで
選んでいただける味と品質を持った商品をお届けしていきます。

特徴と強み

当社は「少品種大量生産」「内製化」「工場の全国展開」により、「低価格」な飲料を全国に「安定的に」提供するという強みを有しています



特徴と強み: 少品種化

当社は液種を水・お茶・炭酸飲料、容量を2L・500mlに集中。各工程で発生する無駄の極小化を実現しています



LDC 自然の恵み天然水
500ml/ 2L



強炭酸水 OZA SODA
500ml



LDC お茶屋さんの緑茶
500ml/ 2L



LDC お茶屋さんの烏龍茶
500ml/ 2L



彩水-あやみず-
500ml/ 2L

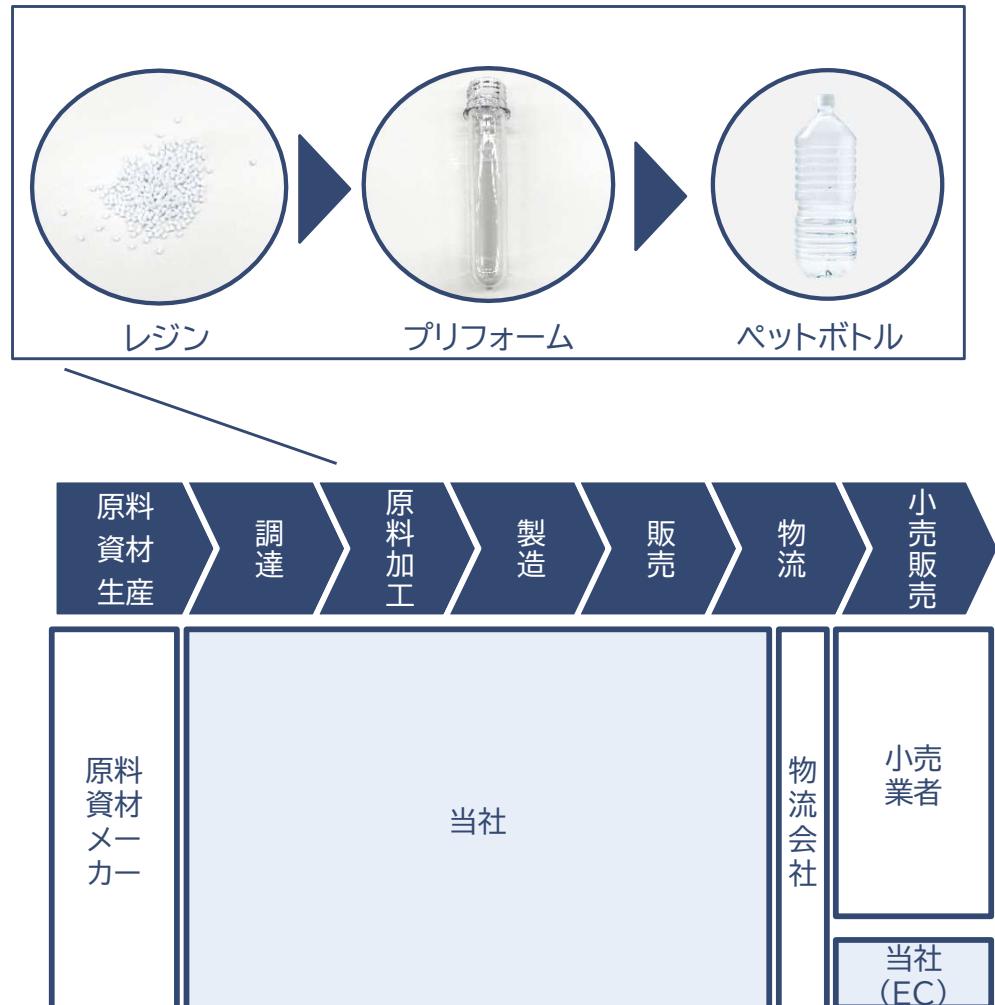


彩茶-あやちゃ-
500ml

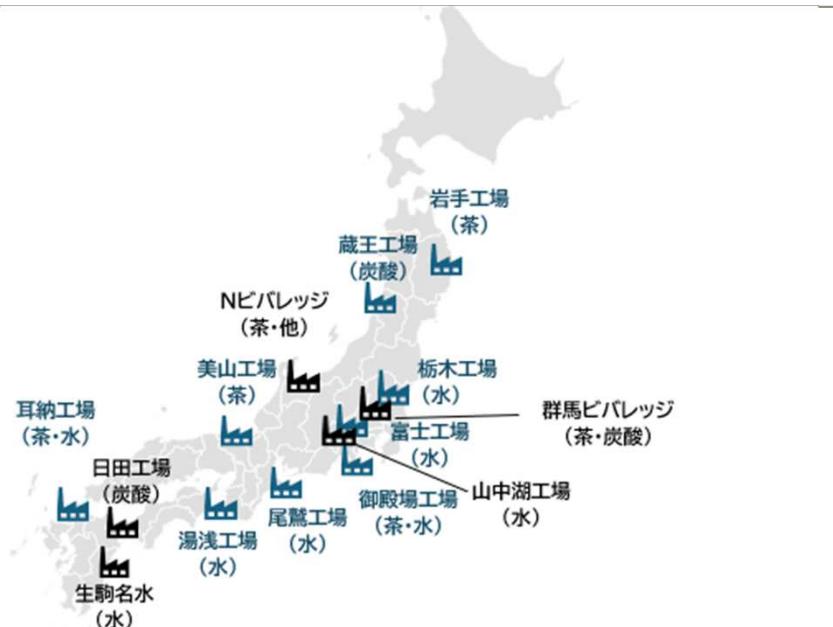
特徴と強み：内製化、工場の全国展開

当社グループは各工程の内製化により主に製造コストを低減。また、工場の全国展開により、物流費の抑制及び安定供給を実現しています

調達から販売までの内製化



飲料工場の全国展開

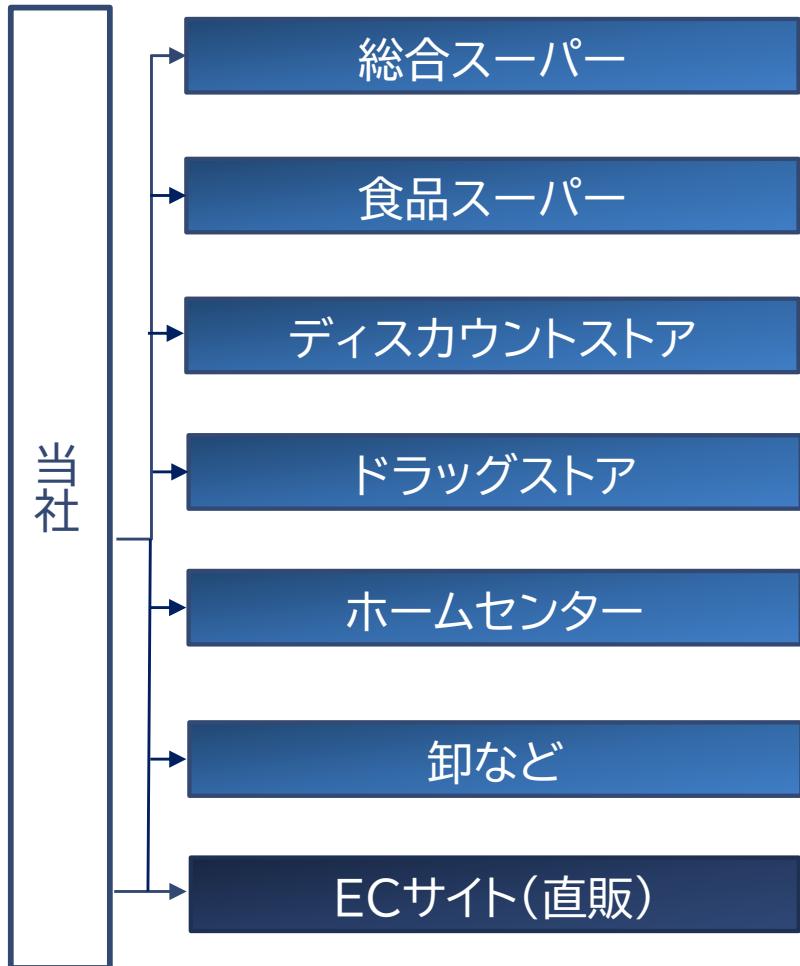


- 岩手工場(岩手県)
- 蔵王工場(山形県)
- 栃木工場(栃木県)
- 富士工場(山梨県)
- 御殿場工場(静岡県)
- 美山工場(京都府)
- 尾鷲工場(三重県)
- 湯浅工場(和歌山県)
- 耳納工場(福岡県)
- 子会社／関連会社
- Nビバレッジ(富山県)
- Oビバレッジ(大分県・山梨県)
- 群馬ビバレッジ(群馬県)
- 生駒名水(宮崎県)

当社の販路: 小売企業との関係、EC展開

各業態における主要な小売企業との関係を構築。EC事業は、主力商品や直営店舗が各モールの賞を受賞するなど、順調に拡大しています

小売企業との強固なパートナーシップ



EC展開によるダイレクトチャネルの拡大



中期経営計画骨子

「Max生産Max販売」の更なるしんか(進化/深化)への取り組みを進めます

Max生産Max販売のしんか(進化/深化) = 生産能力の増強・獲得

- 既存工場^{*1}の改善活動による稼働率向上
- 既存工場^{*1}の設備更新やライン増設による生産能力の増強
- M&Aによる生産能力の獲得及び追加投資による生産能力増強

生産性の向上

- ペットボトルの内製化
- 倉庫新設による物流効率の向上
- 倉庫内業務の自動化
- ITを活用した業務効率化

EC/D2Cモデルへのチャレンジ

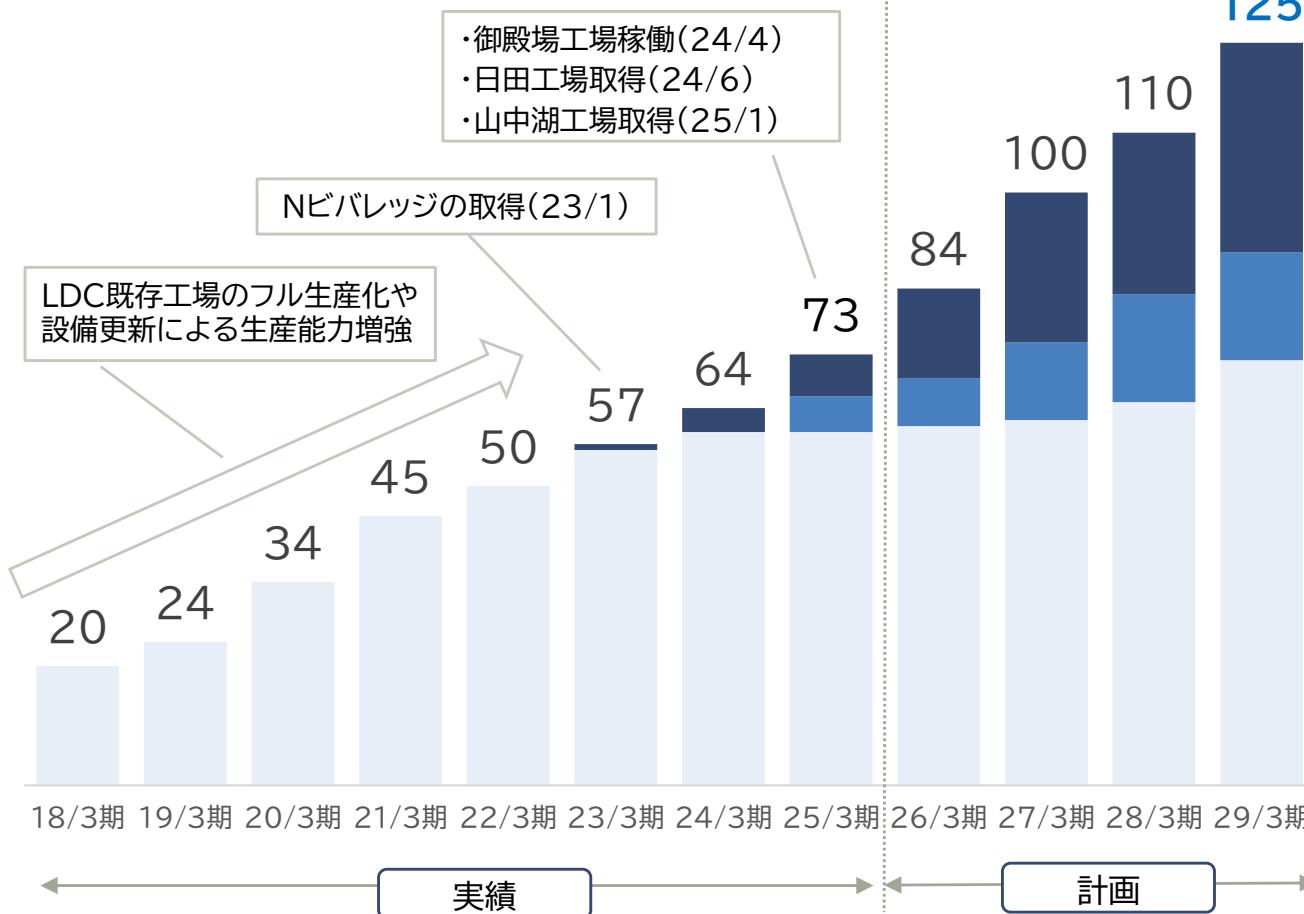
- LDオンラインストアでの販売商品・サービスの拡充
- 広告宣伝費投下による集客

中期経営計画:生産数量

増産への取り組みを着実に実行し、2029年3月期の生産数量125百万箱(25年3月期比+51百万箱)を目指します

生産数量の推移(単位:百万箱)

■ LDC既存*1 ■ 新工場*2 ■ M&A*3



今後の増産の取り組み

26/3期

- 26年1月
:群馬工場取得

27/3期

- 26年4月
:Nビバレッジ新ライン稼働
- 27年3月期下期
:御殿場工場 新ライン稼働
:群馬工場 能力増強①

28/3期

- 28年3月期下期
:岩手工場ライン更新
:群馬工場 能力増強②



計画
未反映

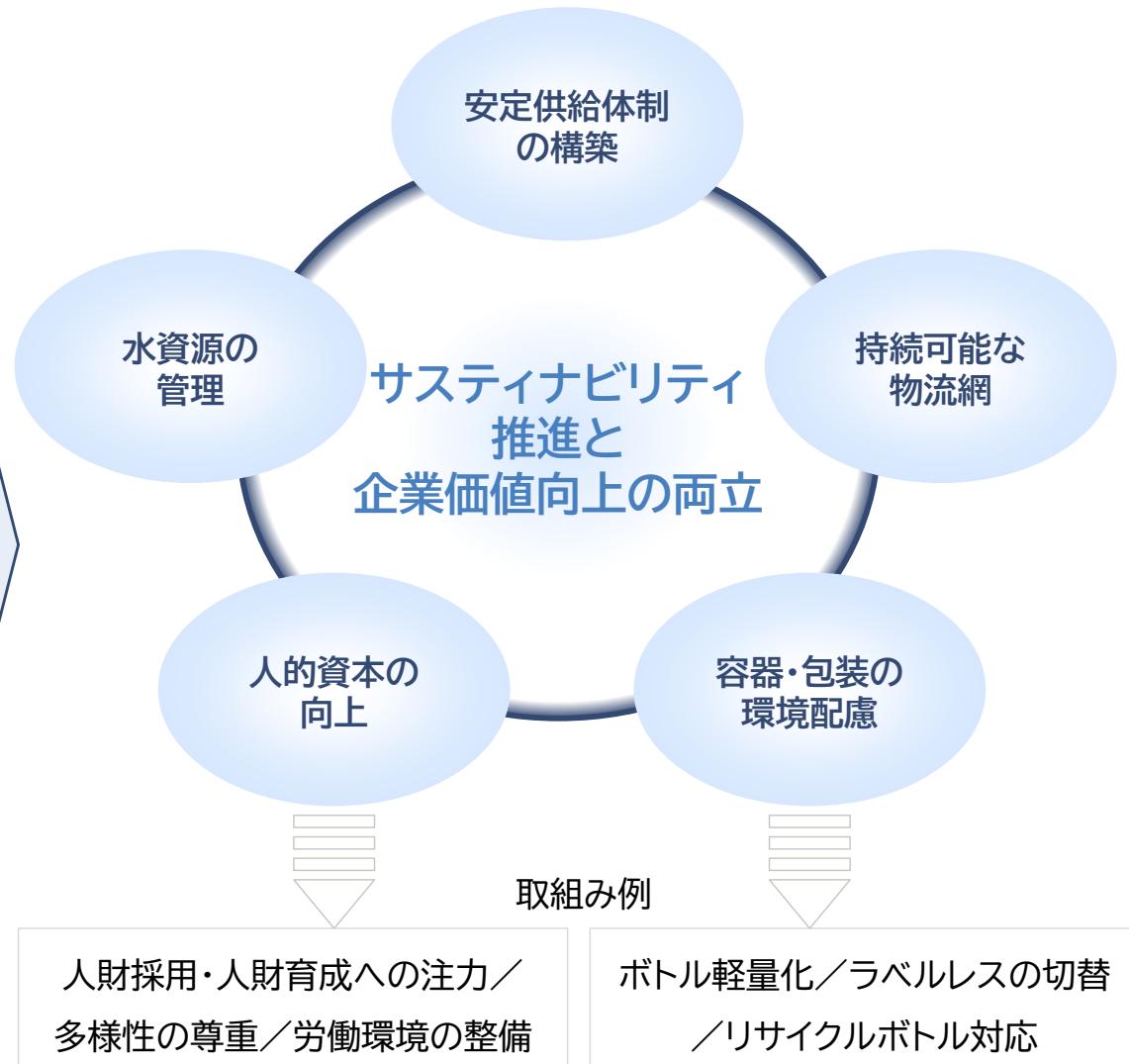
- M&Aによる生産能力獲得

サステイナビリティに関する考え方及びマテリアリティ

基本方針に基づき、より長期的な視点から「サステイナビリティ推進と企業価値向上の両立」を目指します

基本方針

高品質で安全・安心な
飲料・食品を安定的に供給する
ことを通じて、消費者の生活
インフラを継続的に支える
社会的責任を果たす



LIFEDRINK COMPANY

